



CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 23/Mar/2020/vol.582

桜枝 染井吉野（徳島県産 他）Sakura "Somei-yoshino"

日本の桜の名所に植樹されてあるほぼ8割が、この「染井吉野」といわれています。「染井吉野」はオオシマザクラとエドヒガンの交配種で、江戸後期から江戸の染井村の植木職人によって販売されていたそう。花付きもよく、成長も早い、そして花にボリュームがあり見た目が豪華なうえに、若木のうちから花をつけるということで、当時から庭木として人気を博し、多くの人に好まれ植えられてきたそうです。まずは花だけが咲きそのあとに葉が出るのも魅力の一つ、春の暖かさが本格的になって来た時に、待ちましたとばかりに、絵画のごとく美しいピンク色に日本の風景を染め上げてゆきます。春の恩恵の象徴ともいえる染井吉野は咲くタイミングもほぼ一緒に、一斉に咲きそして一斉に散りゆくところまで絵になります。過去、国際親善の象徴として日本から様々な国に贈られ植樹されてきた染井吉野も多いといえます。うらかな季節に咲く桜の花をめぐる習慣は今や、日本だけではないのかもしれませんが、他の国には無いぐらい国中いたるところに咲き乱れる風景はやはり日本の「春」そのものの姿でもあり、新年度、新学期を迎える日本のサイクルにおいても一層「希望」を馳せる光景であることは確かなようです。